

国内実態調査報告書

テーマ : 北海道日本ハムファイターズとの共同勉強会合宿
ゼミ名 : 三浦 俊彦 ゼミ
調査日 : 2024 年 8 月 1 日 (木) ~ 8 月 3 日 (土)
調査先 : 北海道札幌市、北広島市、小樽市
授業科目名 : 演習 I、演習 III
参加学生数 : 18 名 (3 年生)

調査の趣旨 (目的)

北海道日本ハムファイターズ (日ハム) に就職しているゼミ 0B と事前に打ち合わせを行い、日ハムが 22 年のシーズンからホームグラウンドとして使っているエスコンフィールド (北広島市の北海道ボールパーク F ビレッジ内の野球場) をどう活性化していくかについて、ゼミ生たちがエスコンフィールドでパリーグ公式戦を観戦し、球場内ツアーも行って実感した上で、日ハム社員の方の前で活性化案を発表し、ディスカッションを行うこと。

調査結果

合宿前に頂いた資料から事前勉強をした上で、実際にエスコンフィールド野球場に到着すると、実は球場だけでなく、F ビレッジという単なる球場を超えた広大な土地のボールパーク (産業集積のようなもの) であり、エスコンフィールド以外にも、F ビレッジスノーパーク、ユニ・チャーム DOG PARK、KUBOTA AGRI FRONT など協力企業の施設が点在し、飲食施設や宿泊施設、居住施設としてのマンションまで存在し、さらに 28 年 4 月には北海道医療大学のキャンパス移転地になっているなど、球場を中心とした街をつくっていかうという壮大な構想であることが理解された。

合宿初日に日ハムーオリックス戦を観戦し、2 日目に球場内ツアーを行った後、球場内のラウンジに場所を移し、三浦ゼミ 3・4 年を 6 チームに分け、「エスコンフィールドの活性化」というお題に対し、各班 1 時間以上ディスカッションを行った後、ppt その他を用いてプレゼンを行い、日ハム社員の方から質疑を受けて議論した。各班の発表は、a. エスコンフィールド自体の集客向上策、b. エスコンフィールドを含む F ビレッジ全体の価値向上策、の大きく 2 つに分かれたが、両者の関係をどううまく相乗効果をもってつなげていくかが重要なことが理解された。

